

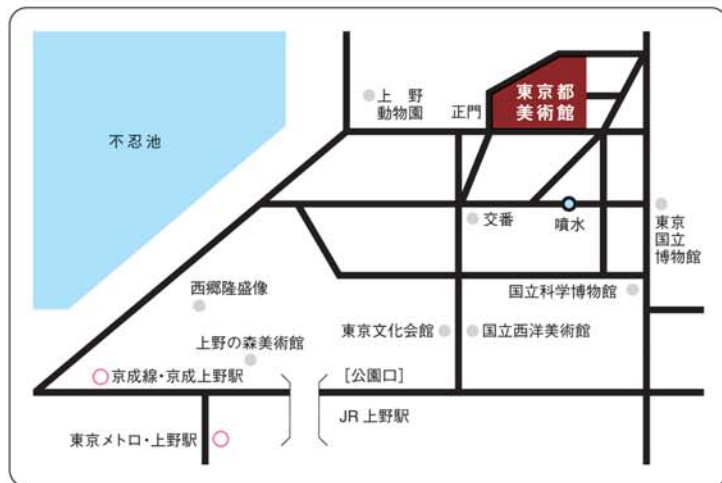
東京都美術館では、毎年、新しいアートの表現者をグループ単位で募集します。
公募により選ばれたグループには、当館がギャラリーA、B、Cのいずれかを無償で提供し、
空間を活かした展示を応援します。(注意:実施に係る費用はグループの自己負担になります。)
2018年に開催するグループ展の公募は、2017年2月頃より開始する予定です。
詳細が決定次第、当館ウェブサイトなどで告知します。



この展覧会は、新しい表現に挑む
グループの企画を東京都美術館が
選定し開催するものです。

GROUP SHOW OF CONTEMPORARY ARTISTS 2016

開館時間: 9:30-17:30
(ただし、12月2日(金)、9日(金)、16日(金)は20:00まで)
*入室は閉室の30分前まで
休館日: 2016年12月5日(月)
観覧料: 無料
主催: 東京都美術館 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、各展覧会の実施グループ



 東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36
Tel: 03-3823-6921 (代表) <http://www.tobikan.jp>

交通のご案内
○ JR「上野駅」公園口より徒歩7分
○ 東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」7番出口より徒歩10分
○ 京成電鉄「京成上野駅」より徒歩10分
* 駐車場はございませんので、車での来場はご遠慮ください

GROUP SHOW OF CONTEMPORARY ARTISTS 2016

第5回
都美セレクション
グループ展
観覧料: 無料



思いアラタに Newly think
2016年11月26日(土) - 12月6日(火) ギャラリーA
小田伊織《Sky Walk》2012



キョウノドウキ - 矩形・そこに見る日本画の可能性
Kyō no Dōki: Rectangle - Possibility of Nihonga that is found there.
2016年11月26日(土) - 12月6日(火) ギャラリーB
神彌佐子《mo》2015



「日本画の王道」- 11人の拓く 日本画の現在 -
The Mainstream of Nihonga - 11 knights of the Brush at the Vanguard of Nihonga -
2016年12月6日(火) - 12月18日(日) ギャラリーC
米田実《華の望》2015年、荒木亨子《卓上の花瓶》2015年、廣瀬貴洋《銀河の中》2015年、岩田社平《雪月花時最憶君〜花泥棒》2014年 (左から、いずれも部分)



紙神 KAMIGAMI - Paper is a God -
2016年12月9日(金) - 12月18日(日) ギャラリーA
伊藤咲穂《origin》2013



無・尽・藏 MUZINZO
2016年12月9日(金) - 12月18日(日) ギャラリーB
張義明《光の種》2009

GROUP SHOW OF CONTEMPORARY ARTISTS 2016

第5回 都美セレクション グループ展

「都美セレクション グループ展」は、東京都美術館が新しい発想によるアートの表現者を応援する展覧会です。各展覧会は、公募による企画のなかから選抜されたグループが実施します。都美術館のギャラリーA、B、Cのユニークな空間を舞台に、5つのグループが、絵画、工芸、写真、映像、インスタレーションなど様々なジャンルで現代美術を表現します。

想いアラタに Newly think

2016年11月26日(土) - 12月6日(火) ギャラリーA
12月5日(月) 休室。12月2日(金)は20時まで開室。

グループ名：月火水木金土日

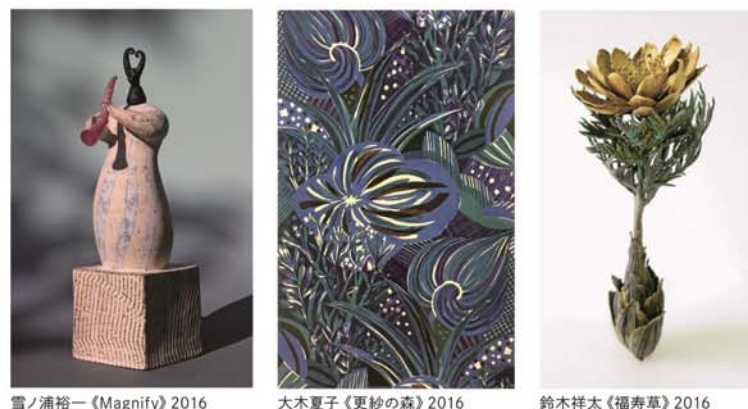
出品作家：泉さやか/小田伊織/大木夏子/桂川美帆/加藤富喜/小島秀子*/
狐塚崇子/佐藤典克/鈴木祥太/萬嶋薫/土屋直人/長谷川大祐/
濱野佑樹/前沢幸恵/森田麻里/雪ノ浦裕一
*印はグループ代表者(以下同じ)

展示構成：SHIMA ART&DESIGN STUDIO 写真：花田竜一 音楽・照明：垂見幸哉

グループプロフィール：
私たちは現代社会や生活を舞台に、工芸・創作に対する素材への執着と手技を用いて制作活動を行う工芸作家グループです。世代や活動分野の異なるメンバーがそれぞれの想いを繋ぎ、現代における魅力的な工芸のあり方を、空間を含め提示すると共に、鑑賞者に対して、美術工芸の一つの可能性を提案したいと考えております。

【関連事業】
ギャラリートーク
開催日：11月26日(土)、27日(日)、12月3日(土)、4日(日)
問合せ先：omoiaratani@gmail.com

グループによる展覧会紹介：
16名の工芸作家が集い、4回目となる今展示で私たちは“想いアラタに”工芸を見つめ直し、未来への道筋を表現する大きな“サイン”を会場に描き出します。永きにわたる工芸の歴史の中で、私たちは未来への道を開拓している最中です。素材からスタートする私たちの工芸に対する“想い”という道筋は、光により派生しながら未来への地図を描き、繋がります。その道筋を辿れば、一人一人の作品に辿り着き、それぞれの未来への展望が示されます。



雪ノ浦裕一《Magnify》2016 大木夏子《更紗の森》2016 鈴木祥太《福寿草》2016

キョウドウキ - 矩形・そこに見る日本画の可能性

Kyō no Dōki : Rectangle - Possibility of Nihonga that is found there.

2016年11月26日(土) - 12月6日(火) ギャラリーB 12月5日(月) 休室。12月2日(金)は20時まで開室。

グループ名：キョウドウキ展実行委員会

出品作家：糸山志泉/小名木美緒/重政啓治/神淵佐子/高木直美/
高橋希和/中村あや子/東俊行/星晃/和田雄一*

招待作家：海老洋/長沢明

グループプロフィール：
「キョウドウキ」というタイトルの展示企画は2014年に武蔵野美術大学通信教育課程日本画コースの教鞭を執る講師陣・スタッフ・卒業生が、互いの利害関係や年齢差による意識の違いを乗り越えて、新しい表現を探求して行こうという目的で展覧会を企画したことからスタートしました。「描く」という行為への様々な動機の関ぎ合いの中から、今迄気付かなかったもの・無かったかもしれないものを見つけ出して行ければと考えて活動しています。

【関連事業】
文化人類学者 関野吉晴氏による講演
開催日：未定 参加方法：当日ギャラリーBへ直接お集まり下さい。

カタチに潜むドウキI・十五代酒井田柿右衛門を交えて(仮称)
開催日：11月27日(日) 14:00~ 参加方法：当日ギャラリーBへ直接お集まり下さい。

カタチに潜むドウキII・十四代今泉右衛門を交えて(仮称)
開催日：12月4日(日) 14:00~ 参加方法：当日ギャラリーBへ直接お集まり下さい。
問合せ先：kyonodoki@gmail.com

グループによる展覧会紹介：
私達が当たり前前に捉えている「矩形の画面に描く」と云うことについて、今一度考え直してみることで、現在の「日本画」という表現へ繋がる様々な意匠・形式の源泉が見えて来るのではないかと考えています。これらを生み出してきた過去の職人や画家達の「描く」事への動機へと想いを馳せつつ、その上で今私達が感じていること(動機)を構築し直してみようとするこの試みは、私達の中に知らぬ間に刷り込まれている何かを炙り出してくれるに違いありません。



和田雄一 + 小崎慎介(映像)《LUMINOUS + GUIDEPOST》2015 東俊行《炎》2012 重政啓治《周防八景(部分)》2016

「日本画の王道」- 11人の拓く 日本画の現在 -

The Mainstream of Nihonga - 11 knights of the Brush at the Vanguard of Nihonga -

2016年12月6日(火) - 12月18日(日) ギャラリーC
12月9日(金)、12月16日(金)は20時まで開室。

グループ名：現在日本画研究会

出品作家：青木秀明/荒木亨子/岩田壮平/上野高/梶岡百江/能島浜江/
伴戸玲伊子/廣瀬貴洋/丸山勉/吉田幸紘/米田実*

グループプロフィール：
「日本画」の歴史を刻んできた3つの団体(院展、日展、創画会)に所属し、2つの地域(東京、京都)で活動する11人の同世代の日本画作家が、それぞれの枠を超えて1つの場を創造します。「現在日本画研究会」は過去と未来の間、過去から未来へと移行行く“今”ここに在る形を発信していきます。

【関連事業】
ギャラリートーク
開催日：12月11日(日)(詳細未定)
問合せ先：現在日本画研究会facebook https://www.facebook.com/asjp11
genzainihonga@gmail.com



左) 梶岡百江《おかえり》2015
右上) 米田実《約憲(制作途中・部分)》2016
右下) 廣瀬貴洋《タイトル未定(制作途中・部分)》2016

グループによる展覧会紹介：
「日本画」の歴史を考える時、それは団体展の歴史と切り離すことができません。私たちは日本画の歴史に学び、団体展のDNAを受け継ぎ、これからの日本画の在り様を考えていきます。
本展では団体や活動地域、テーマの異なる作家による大作日本画を同時に見ることが出来ます。この東京都美術館で団体の垣根を越えて集い、団体展の底力を感じて頂けるような作品をご覧頂きたいと思えます。

紙神 KAMIGAMI - Paper is a God -

2016年12月9日(金) - 12月18日(日) ギャラリーA
12月9日(金)、12月16日(金)は20時まで開室。

グループ名：MITSUMATA

出品作家：足立篤史/伊藤咲穂*/鶴田美香子

グループプロフィール：
紙を媒体とし、紙と人、社会、精神、自然との結びつきをテーマにそれぞれ制作をする三名の作家によるグループ。和紙の原料である“三椏”から、グループ名をMITSUMATAとして活動しています。可能性に満ちた紙にイマジネーションを投影し、デジタル化した現代に、“紙”という特別な素材の“名前、変容性、価値、可能性”を用いた各々の作品の主体として表現します。

【関連事業】
参加型インスタレーション おみくじ
開催日：会期中随時 会場：ギャラリーA

英語ツアー
開催日：12月10日(土)、18日(日) 15:00~ 会場：ギャラリーA
問合せ先：伊藤咲穂 sakuho.i.819@gmail.com



伊藤咲穂《Dead flowers'16 V》2016 ©平館平

グループによる展覧会紹介：
日本人は古来から神、そして紙、と共に生活をしてきました。時代と共に形を変え、人々の暮らしと芸術を豊かにし、その可能性に満ちた白地に人間は無数のイマジネーションを投影し今日にいたります。また、日本人は「自然万物に神が宿る」という独特の宗教観を持ち、衣食住を営む民族でした。自然の織りなす恵そのものが人々にとって心の拠り所でありました。
生活が情報化する中、「紙」の価値とは一体何でしょうか。平成26年に世界無形文化遺産として登録され、日本の紙の文化が世界に認められたことにもなる一方で、同時に「特別な存在」となってしまったことを強く認識する必要があるのではないのでしょうか。デジタル化した現代に、この「かみ」(紙・神)という特別な素材を用い各人に作品の主材として、社会に対するメッセージを投げかけます。

足立篤史《桜花-OUKA-》2012 © ADACHI ATSUSHI All rights reserved



鶴田美香子《coexist》2016



無・尽・藏 MUZINZO

2016年12月9日(金) - 12月18日(日) ギャラリーB
12月9日(金)、12月16日(金)は20時まで開室。

グループ名：∞3 (インフィニティー スリー)

出品作家：若岱/張義明*/曾靈羽

助成：財団法人國家文化藝術基金會 / 台北市政府文化局
後援：台北駐日經濟文化代表處

グループプロフィール：
日本と台湾は、環太平洋地帯に位置し、自然と文化を多く共有しています。同時に近年自然の脅威に脅かされてもいます。このような現状を踏まえ、「生態・能源・永続」をキーワードに台湾出身の陶芸家 張義明、台湾在住の現代水墨藝術家若岱、曾靈羽は、創作活動に取り組んできました。そこで、本展覧会では、過去に学び、未来を見据え、人が自然を敬いつつ、如何に永続的に自然界と共存するかを改めて考えるべく、我々は∞3 (インフィニティースリー) を結成しました。

【関連事業】
3人の作家たちによるギャラリートーク
開催日：12月9日(金) 問合せ先：enyou-1023@mopera.net

グループによる展覧会紹介：
<無・尽・藏>は、約千年前に宋朝の蘇軾が<前赤壁賦>の中で大地に対し称賛し、創造する者の無限の可能性を歌った言葉に由来します。
<無・尽・藏>を題としたのは、蘇軾と同じく大自然に対する賛嘆とともに、発展を続ける現代文明に危惧を抱いたからです。そこで、「生態・能源・永続」を我々のテーマとしました。



若岱《反核II・白線シリーズ-31》2013 曾靈羽《2025非核家園計畫》2014-2016 張義明《心擲花蝶》2016